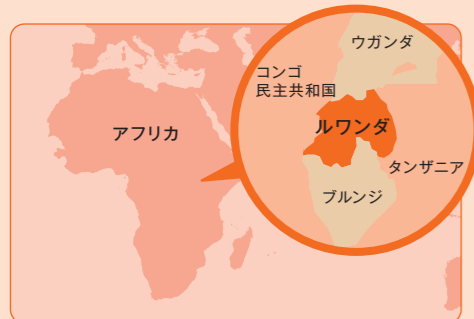


# 世界中で起こっている紛争 生き延びた少女が夢を叶えるまで

—ルワンダのマーリンさん—



「先生になりたい」夢をかなえたマーリンさん

## 大虐殺で両親を亡くして

「あの日何があったかはわからない。覚えているのは、途方もなく悲しくてつらかった気持ちだけ」1994年のルワンダ。約100日間で80万人以上が大虐殺の犠牲になる中、4歳だったマーリンさんは両親を亡くしてしまいます。

## 「大丈夫、一人じゃないよ」

心に傷を抱え一人残されたマーリンさんを救ったのは、チャイルド・スポンサーとの出会いでした。「一人じゃないよ」、彼女のスポンサーは、少女が未来を取り戻せるよう、温かい言葉が詰まった手紙とともに、彼女が教育を受け続けられるよう励まし続けました。一人ぼっちの少女にとって、スポンサーの存在はどれほど大きかったことでしょう。そのおかげでマーリンさんは学校を卒業し、今では先生になることができました。



生徒に囲まれるマーリンさん

## 受け取った「思いやり」を周りにも

大人になったマーリンさんには、ホノリンちゃんという家族ができました。実はホノリンちゃんも孤児でした。誰かに寄り添ってもらい喜びを知っていたからこそ、マーリンさんは養子を迎える決意をしました。チャイルド・スポンサーが贈った「思いやり」により希望が広がったのです。



養子を迎えたホノリンちゃんと

あなたも、子どもたちに喜びを届けませんか？  
チャイルド・スポンサーシップのお申込み、また、チャイルドをもう一人ご支援いただける方は、お電話またはWEBからご連絡ください。

電話でのお申込み  
**03-5334-5351**  
(平日10:00-17:00)

WEBからの  
お申込み



# World Vision News



## 世界の最も危険な地域にいる 子どもたちの未来を守る

命を守り、取り戻し、未来を築く

199

2022年 夏号  
ワールド・ビジョン・ニュース



## ウクライナ危機

2人に1人の子どもたちが避難を強いられています

2022年2月のウクライナ危機発生後、国境を越え避難した難民は510万人、国内で避難を強いられている国内避難民は770万人に上ります（2022年4月20日時点）。

ウクライナの子ども総人口750万人のうち、半数を超える450万人が避難を強いられているという国連児童基金（UNICEF）からの報告によれば、子どもたちの2人に1人以上が国内外で避難生活を送っているということが分かります。これは、第2次世界大戦後、最も深刻な速さと規模で子どもたちが故郷を追われているという現状を表しています。

それまでの平穏な暮らしを突然奪われ、家族や友達と引き離され、心に深い傷を負っている子どもたちが大勢います。中には、緊張状態で長時間かけて移動し疲れ切っている子どもや、満足な食事をとることができず空腹状態にある子どももいます。また、保護者に伴わず一人で国境を越えてきた子どもたちも少なくありません。また、子どもの難民・国内避難民の数が増え続けることによって、人身取引を含む虐待、暴力、搾取のリスクにさらされている子どもの数もまた、増え続けています。



# 世界の最も危険な地域にいる子どもたちの未来を守る

命を守り、取り戻し、未来を築く

## 故郷を追われる難民・国内避難民の子どもたち

8,400万人。紛争や迫害により故郷を追われた人々の数です（2021年11月時点）。この数字は、過去最多で、2011年以降増加の一途をたっています。過去10年でおおよそ2倍に増えました。今年2月に発生したウクライナ危機を受けて、さらに増加することが予測されます。

避難を強いられている人々のうち、18歳未満の子どもが、およそ4割を占めています。ほんの一瞬で、それまでの幸せな暮らしを奪われてしまった子どもたち。紛争の地に生まれ、故郷を追われ難民となり、平和な暮らしが何かさえ分からない子どもたちもいます。

毎年6月20日は、「世界難民の日」です。難民の保護と支援に対する関心を高め、世界各地で続けられている難民支援活動への理解を深めるため、2000年12月国連総会で制定されました。



## ウクライナの子どもたちを守るために、ワールド・ビジョンが届ける支援

ワールド・ビジョンは、ウクライナ危機発生直後から緊急支援チームを編成し、ウクライナ国内および周辺国にて活動を続けています。避難所や国境の仮設テントなどで、食料や衛生キットを含む生活物資の配布や、子どもたちが安心して安全に過ごせる遊びと学びの場「チャイルド・フレンドリー・スペース」を提供しています。また、ワールド・ビジョンの子どもの保護の専門家が、ルーマニアの避難所で活動するボランティアスタッフを対象に、子どもの保護に関する啓発セッションを行いました。避難している人々が人身取引などのリスクから自分自身を守るためにどのようなサポートができるのか、ボランティアスタッフが理解を深めることで、子どもたちの未来を守ります。

今後も、刻一刻と変わるウクライナの難民・国内避難民の状況に柔軟に対応し、他団体と調整しながら最も必要とされている支援を見極め、届けていきます。



配布のための食料をトラックに積み込むワールド・ビジョンのスタッフ



避難所のボランティアに子どもの保護について伝えるワールド・ビジョンの専門家



# シリア・南スーダン

何年も続く紛争で、平和な時代を知らない子どもたち

## シリア危機

2011年3月の危機発生から11年が経過した現在も、シリア人口約1,750万人のうち、572万人以上が難民として国外に避難しています。そしてシリア難民のおよそ半分は18歳未満の子どもたちです。

シリア隣国のレバノンでは、人口約680万人の国土に、シリア難民



レバノンにあるベッカー高原の難民キャンプの様子

約84万人※が避難しています。もともと経済状況が悪化していたところに、多くの難民を受け入れており、食料品や家賃等の物価が高騰し、人々の生活の様々な面に、大きな影響を及ぼしています。

難民世帯には就労許可がなく、貯蓄を取り崩したり、日雇い仕事でやりくりしています。しかし、長引く避難生活で貯蓄は底をつき、コロナ禍でのロックダウン（都市封鎖）、行動制限等に伴う景気後退で仕事も減っています。家計を支えるため、廃材集めや路上の物売りなどに子どもを働きに出したり、幼いうちに嫁がせたりという選択を余儀なくされる難民家庭も増えています。

ワールド・ビジョンでは、難民・避難民キャンプでの水・衛生環境の改善や、避難中に失った学びを取り戻すための補習教育の取り組み等を進めています。また、パートナー団体と連携して、生計安定のための生活資金や生活必需品の提供を進めています。

※UNHCR OPERATIONAL DATA PORTAL 2022年3月末

## 南スーダン紛争

2011年に独立した最も新しい国、南スーダン。その歴史をさかのぼると、1956年にイギリス・エジプトの共同統治からスーダンとして独立した際の、南北の部族対立から内戦が始まっています。その後、半世紀以上も、断続的に紛争が続きました。南スーダンとして独立後も武力衝突は続き、160万人以上が国内で避難し、218万人以上が難民として国外に流出しています。今も情勢は安定せず、子どもも大人も、平和を知らない人がほとんどです。

国内にとどまる人も、戦闘から逃れるために住まいを転々とするため、子どもたちが学校に安定して通うことも容易ではありません。

また、もともと肥沃な土地にもかかわらず、戦闘地域では農作物の作付けや収穫もできず、気候変動の影響で大雨や干ばつも重なり、食糧危機にも直面しています。

難民の多くは近隣のウガンダやスーダン、エチオピアなどに避難しています。避難の道中で家族とはぐれる子どもたちも多く、人身取引などの危険と隣り合わせの日々を送っています。



南スーダンでの放課後の補習授業の様子

最も多くの難民を受け入れているウガンダには、難民居住地があります。居住地に暮らす人々は土地と家を割り当てられますが、国際社会の相対的な関心の低下もあって人道支援は不足しがちで、厳しい生活が続いています。

ワールド・ビジョンでは、難民・避難民への食糧支援や、保護者を失った子どもたちを保護しています。また、学びを取り戻すための補習教育の取り組み等が進められています。



### 9歳と3歳の娘とともにウクライナから国外へ避難した母親、アナさん

ハルキウから逃げてきました。紛争が始まってから3日間、地下室で過ごしましたが、爆撃が家の近くまで来たので、急いで逃げました。爆撃を間近に経験し、避難する子どもたちの恐怖と緊張は極限に達しています。ワールド・ビジョンの運営するチャイルド・フレンドリー・スペースで、お絵かきしながら休憩することができて、ようやく娘たちに笑顔が戻りました。

### レバノンで暮らすシリア難民のノアちゃん(10歳)

シリアで暮らしていた6歳のころに近所の家が爆撃されたのを覚えています。レバノンに避難してきましたが、非公認の難民キャンプでの生活はとても苦しくて、学校に通うことは安全な暮らしができる人の特権だと思っていました。でもワールド・ビジョンの教育プログラムに参加するようになり、私は家族の中ではじめて教育を受けることができました。知らないことを学ぶのはとても楽しいし、将来は算数の先生になりたいと思うようになりました。



### 南スーダンのアーベンちゃん(15歳)

9歳のころ、戦闘から逃れるために、長い道のりを数日間、隣の州まで歩いたのを今も覚えています。道中で子どもたちが病気や空腹で死んでいくのを目の当たりにしました。

避難先で小学校に通い始めましたが、紛争で目にしたものの影響で授業に集中できず、勉強に遅れをとるようになりました。そこで、ワールド・ビジョンの補習授業のプログラムに参加すると、少人数制のおかげで、わからないこともきちんと質問できるようになり、学校の授業についていけるようになりました。学ぶ楽しさを知り、将来は医師になるという目標もできました。地域のお母さんが処方を理解せずに、子どもたちに薬を過剰に投与しているのを知ったことがきっかけです。



## 紛争から避難する子どもたちに迫る脅威。子どもたちを守ってください。

ウクライナ、シリア、アフガニスタン、南スーダン…世界中で勃発する武力衝突や長期化する紛争が原因で家を追われている子どもたちが大勢います。子どもたちの今、そして、未来を奪うこの事態に対応し、ワールド・ビジョンは最前線で活動を続けています。

### 命を守り、回復を支え、未来を築く

子どもたちの命を守るために、ワールド・ビジョンは、避難用のシェルター運営、水・食糧の提供、心理的ケア等、今、必要とされる支援を届けています。また、健やかな成長のために子どもらしさを取り戻し、未来を築けるよう、教育や生計向上等の長期的な取り組みも進めています。紛争の影響下で、子どもたちに「子ども時代」を取り戻すために、難民支援募金にご協力ください。また、長期化する避難生活を支えるために、プロジェクト・サポーター（毎月の支援）として、継続的な支援にご参加いただける方を募集しています。刻々と変わる状況に応じて、今、必要な支援を届けるために。子どもたちの命と未来を救ってください。

今すぐ支援する  
難民支援募金（1回の募金）



継続的に支援する  
プロジェクト・サポーター  
（毎月の寄付）



お預かりするご寄付は、ウクライナ、シリア等紛争の影響下にある国や地域で実施する支援事業に役立たせていただきます。



ワールド・ビジョン・ジャパンでは、ウクライナ危機に対応するために、新たに1000人のサポーターを募集するキャンペーンを実施しています。サポーターとして、紛争下の子どもたちの未来を築く活動を応援してください。



詳しくは公式サイトをご覧ください



# 未来ドラフト2021 ～私と難民がつながるアイデア・コンペティション～ グランプリアイデアをヨルダンの教育支援現場で実施!



【課題テーマ】 みんなが安心して学校に通い続けられるように、  
異なる境遇で育った子ども同士が互いに分かり合えるアイデア  
【グランプリ donedone 賞】 知識を分け合えトレジャーハント by もえ

日本の若い世代が難民問題に関心を持つことを願い、「アイデアの寄付」を募るアイデア・コンペティション、「未来ドラフト」。4 回目を数える 2021 年、応募総数 100 件の中からグランプリ donedone 賞に輝いたアイデアを WVJ が教育支援を実施しているヨルダンの学校で実現しました。トレジャーハントでは、ヨルダン人・シリア人の児童でチームを作り、学校内の 5 つのチェックポイントで【お互いの国を知るクイズ、国旗を描いてみよう、身近なもので音楽を作ろう、折り紙で動物園を作ろう、体を動かすゲーム】に取り組みました。また、同イベントは、アイデア発案者のもえさんからの手紙や、日本の女子中高生が制作した日本紹介ビデオを通して、日本の若い世代の難民支援に込める想いをヨルダンの子どもたちに届けることができました。



### トレジャーハントのイベント参加者の声

- ・今日の活動を通じて、協力することの大切さを学びました(参加した生徒)
- ・シリア人生徒がヨルダン人生徒に伝統料理を紹介する際に、「家に食べにおいてよ」と招待していました(教師)
- ・一緒に遊んで仲良くなり、新しい友だちを作る機会になりました(シリア人の母親)

### 未来ドラフト2021の背景

2011 年のシリア危機勃発後、約 1,200 万人が家を追われ、うち 572 万人が国外に逃れています。ヨルダンでは現在、人口の約 10% にあたる 130 万人(未登録者を含める)のシリア人を受け入れています。長引く避難生活のなかで、難民の子どもたちと受け入れるコミュニティ側の子どもの間にとって、「他者」とともに生きていくことには多くの困難が伴い、それゆえに異なる国籍の子どもたちが嫌がらせを受けてしまうこともあります。

### 2 部制で行う授業

今回アイデアを実施した学校は過密状態のため、ヨルダン人の子どもは午前、シリア人の子どもは午後学ばず 2 部制を導入しており、お互いを知ることが難しいという課題がありました。未来ドラフトでは、登校する時間は異なりますが共有している校舎でイベントを実施することで、今後の学びがより楽しく、安心して行えるようになることを目指しました。

# 日本の子どもたちに 生きる力と未来への希望を



新型コロナウイルス感染症が世界中で拡大し、その影響が長引く中、日本国内でも経済状況の悪化による生活困窮が、子どもたちの生活に甚大な影響をおよぼし続けています。ワールド・ビジョン・ジャパン (WVJ) は日本国内の子どもたちに対して 2020 年から支援活動を展開しています。2021 年度には地域社会で活動する子ども支援団体計 12 団体への助成を通じて 900 人の子どもたちの食・遊び・学び・居場所等を支えることができました。2022 年度はこの活動を拡大し、以下 4 つの成果を出すことを目的として支援活動を実施しています。

### 成果 1 「食べる」「学ぶ・遊ぶ・居場所・安全に過ごす」

主な活動：助成金事業

- ・食材・弁当等配布、子ども食堂再開への支援
- ・学習支援・遊び場・居場所・宿泊型支援等の実施支援

### 成果 2 中野区\*の子ども課題解決 \*WVJ の事務所が立地

主な活動：中野区子ども支援事業

- 例：長期休み学習支援(学習スペースの提供等)
- 困窮家庭の子どもへ体験機会の提供(キャンプ等)

### 成果 3 子ども支援団体の組織力のサポート

主な活動：子ども支援団体が安全に活動を継続するための支援

- ・セーフガーディング、心のケア、災害時の備えとなる研修の実施

### 成果 4 子ども・若者意見表明

主な活動：問題・課題に直面している子ども・若者の意見共有・発信の支援

- ・多文化共生(子どもの権利条約フォーラム分科会の企画・実施)
- ・中野区子どもの権利(オンラインイベントの開催等)



食材・弁当等配布、子ども食堂再開への支援

多文化共生

## 「国内子ども支援募金」のご案内

日本の子どもの明日、そして未来を支えるために、ご協力をお願いいたします。



### 3,000円の支援



無料塾の生徒が使用する教科書約2冊購入

### 5,000円の支援



お米約10kg分をひとり親世帯に提供

### 10,000円の支援



子ども食堂で約50食分の食事提供

皆さまの募金により、例えば右記のような支援を行うことができます。



新しい地域でスタートします！

## 3分でわかるチャイルド・スポンサーシップ

チャイルド・スポンサーシップについて、ご支援者の皆さまからよくいただくご質問をクマネコが教えてくれるコーナーです。前回に引き続いて、新しくチャイルドをご紹介することになった地域開発プログラムをご紹介します。

アフリカのルワンダで新たな地域開発プログラムをスタートすることになりました。担当の望月スタッフ、どんなところが教えてください。



望月

首都のキガリから北東に約 160km に位置する東部県ニャガタレ郡にて、**ニャガタレ地域開発プログラム**が始まります。この地域はなだらかな丘陵地帯が続き、降雨量が比較的少なく乾燥していて、年間平均気温は 25 度程度と温暖な気候です。隣国ウガンダとの国境に近く、国際物流のトラックが頻繁に往来しています。この地域の住民の主食はメイズ（トウモロコシ）、豆、バナナ、お米などです。



クマネコ

この地域にはどんな課題がありますか？



望月

ニャガタレ郡では、政府が定める貧困ライン未満で生活する人々が 44.1% を占めています。住民の多くは農業を営んでいますが、伝統的な技術しか持たないため、生産性が低いという課題があります。生活面では、多くの世帯が農村の奥に点在して生活しているため、政府による社会サービスやインフラの整備が追い付かず、住民の約半数は安全な水にアクセスすることができません。



家畜が水を飲む同じ場所です水を汲む子どもたち



クマネコ

どんな活動をして、子どもたちを支えていくのですか？



望月

ニャガタレ地域では主に、水衛生、保健、食糧安全保障、教育の分野で活動を行います。特に安全な水へのアクセスが大きな課題になっています。給水システムの建設と公共場所へ給水所を設置することで、下痢などの不衛生な水を起因とした病気を防いだり、子どもたちの仕事になってしまっている水くみの時間を減らして学校に通い続けられるように活動を進めます。また、地域全体が潤い、子どもたちを支えていけるよう、農業生産性を高める支援や、農産物を多様化させる技術指導や農産物販売のための支援も行っています。



チャイルド・スポンサーシップの説明を受けている保護者と子どもたち



クマネコ

望月スタッフ、ありがとうございました。今後支援によって、このニャガタレ地域がどのように変わっていくのか、とても楽しみです。



クマネコ

企業との連携

## 「Mother to Mother SHIONOGI プロジェクト」第一期事業の成果を公表しました

ケニアの母子の健康改善を目指し、塩野製薬株式会社様との連携で進めている「Mother to Mother SHIONOGI プロジェクト」。2015 年から 6 年間実施した第 1 期事業の成果を報告するメディアセミナーが 3 月 16 日に開催されました。プロジェクトでは、保健と水衛生のインフラ整備、地域保健人材とマサイ族住民の能力強化を通して、保健サービスへのアクセスが劇的に改善。診療所への来院者数はプロジェクト開始前と比較して年平均 1.8 倍に増加、保健施設での分娩割合（専門技能者の介助含む）は 12 倍に増加しました。2018 年からは、WVJ と国立大学法人長崎大学 熱帯医学研究所が連携して科学的評価調査を実施。調査の結果から、子どもの下痢症有病率が 28% から 12% に改善する等、プロジェクトの貢献が明らかになりました。2020 年 4 月にはケニア東部キリフィ県で第二期事業を開始。安定した医療サービス提供を目指し、パナソニック株式会社様の協力を得て、太陽光発電システムの設置に取り組む計画となっており、連携が広がっています。



メディアセミナー（2022 年 3 月 16 日開催）にて、左から、塩野製薬 取締役副社長 ヘルスケア戦略本部長 澤田拓子氏、塩野製薬 ヘルスケア戦略本部 CSR 推進部 谷由香利氏、WVJ 事務局長 木内真理子、長崎大学名誉教授 一瀬休生氏



塩野製薬株式会社  
Mother to Mother  
SHIONOGI プロジェクト



第 1 期成果報告  
ダイジェスト動画



タバウン地域（ミャンマー）のチャイルドたちと石井様（前列中央）



保護者や地域の方々に向けてスピーチをする石井様と、タバウン地域のプログラム・マネージャー（当時）

## チャイルド・スポンサーの「マイ・ストーリー」

スタッフが出会ったチャイルド・スポンサーのストーリーや支援への想いをご紹介します

今回ご紹介するのは、石井伊知郎様のストーリーです。2016年からチャイルド・スポンサーとして 7 カ国（2022 年 3 月現在）、合計 100 人以上のチャイルドを支援くださっている石井様。タイ、カンボジア、ミャンマーの 3 カ国は、実際に支援地域を訪問。2019 年のミャンマーの支援地訪問ツアーでは、チャイルドとその保護者、地域の方に向けて、こんなスピーチ（一部抜粋）をしてくださいました。

「私の両親は農家で裕福ではありませんでしたが、私が医学を学ぶために支えてくれました。私は一生懸命勉強し、小児科医になりました。今、私はこうして、この地域の 11 人の子どもたちのチャイルド・スポンサーができています。思い返すと、自分の成功のカギは教育でした。保護者の皆さん、教育は大変重要です。どうかお子さまが学校に通えるように、可能な限り学びを続けられるように支えてください」

1 分ほどの短いスピーチでしたが、会場にいた保護者の笑顔と拍手から「石井様の想いが届いた」と感じられました。





## 東京マラソン 2021 報告



3月6日に開催された東京マラソン 2021 に、ワールド・ビジョン・ジャパン (WVJ) でボランティアをして下さっている久保田典江さんがチャリティランナーの一人として参加されました。久保田さんはアフリカの子どものきれいな水を届けたいとの思いでクラウドファンディングに挑戦。49名の方が合計 286,000 円の寄付にご協力くださいました。「機会を与えていただいた皆さまにお礼申し上げます。無事完走できたのはチャリティランナーと目標を共有し、励まし合えたおかげです」久保田さんにはブログの執筆をお願いし、挑戦を終えた直後の気持ちを語っていただきました。

認定 NPO 法人ワールド・ビジョン・ジャパンは、東京マラソン 2021 チャリティ事業の寄付先団体です。

ブログを読むにはこちら



## 「ワールド・ビジョン・サマースクール」を今年も開講します！



日本に住む子どもたちに世界に目を向ける機会を持ってもらうことを願って開催している小学生向けイベントです。今年は SDGs をテーマにオンラインにて 4 回開催します。ホームページよりお申込みください。皆さまのご参加をお待ちしています。



昨年のサマースクールの様子。写真や動画、クイズを交えて世界の子どもたちを取り巻く課題について紹介します

- 1 回目：7月28日(木) 13:30-14:50 テーマ：ゴール 3 保健「感染症と世界の子どもたち」 対象：小学 1-6年生
- 2 回目：8月3日(水) 10:00-11:00 テーマ：ゴール 1 貧困「世界の問題と子どもたち」 対象：小学 1-3年生
- 3 回目：8月3日(水) 13:00-14:30 テーマ：ゴール 1 貧困「世界の問題と子どもたち」 対象：小学 4-6年生
- 4 回目：8月5日(金) 10:00-11:30 テーマ：ゴール 16 平和と公正「子どもの権利と多様性」 対象：小学 4-6年生

### 講師派遣のご依頼を受け付けています



総合的な学習の時間や国際理解教育の一環としてスタッフが教育機関を訪問またはオンラインにて、お話をさせていただく「講師派遣」を実施しています。SDGs や紛争・難民など皆さんが関心を寄せておられるテーマに合わせてプログラムを用意いたします。教育機関にお勤めの方やご家族ご友人が通われる教育機関で実施をご検討いただければと願っています。ホームページより、お気軽にご相談ください。

### お引越しされていませんか？ご連絡お待ちしております！

チャイルドからの手紙や成長報告、グリーティングカード、寄付金控除等に必要領収証等、大切な書類を確実にお届けするため、住所変更のご連絡をお願いいたします。ホームページ上部の「お問い合わせ」フォームをご利用ください。

マイワールド・ビジョンから簡単にご変更いただけます。ログイン後、「登録情報の確認、変更」よりお手続きください。



### スタッフが教会を訪問し、お話しします

WVJのスタッフが教会を訪問し、教会学校、中高生会、青年会・婦人会・壮年会、各種集會等で、世界の子どもたちの現状や支援活動の仕組み・成果等をお話します。オンラインでの対応も可能です。お気軽にお問合せください。

fd@worldvision.or.jp 担当：長下部（おさかべ）

### 年次報告書のお詫びと訂正

ワールド・ビジョン・ジャパン 2021 年度 年次報告書において、誤記がございました。お詫び申し上げますとともに、下記のように訂正させていただきます。

対象ページ：P24 2021年度会計報告

【誤】経常外収益合計(D) → 【正】経常外費用合計(D)

## ワールド・ビジョン・ジャパンが本を出しました！



ワールド・ビジョン・ジャパン (WVJ) が改善に取り組んできた課題の一つ、「栄養不良」をテーマにした本、『いのちのバトンをつなぎたい 世界の子ども3人に1人は栄養不良』を、4月7日の世界保健デーに出版しました。栄養不良と密接に関係する飢餓、紛争、水衛生、気候変動等の要因にも触れ、WVJの活動事例も豊富に紹介しています。

パンデミックや政情不安等により子どもが健やかに生きることが難しい今、本書をきっかけに世界の課題を知り、考え、行動する仲間が増えて欲しいとの願いで制作したこの本。皆さまもぜひ一読ください。



★お求めは、全国の書店または Amazon・楽天ブックス等のネット書店で！

- ・書名：いのちのバトンをつなぎたい 世界の子ども3人に1人は栄養不良
- ・著者：ワールド・ビジョン・ジャパン
- ・発行：合同出版株式会社
- ・定価：1,760 円（本体 1600 円＋税）



ワールド・ビジョン・アフガニスタン事務局長 アスタ・チャールズ



## 世界に思いをはせて Vol.10.

事務局長 木内(きない)真理子

この原稿を書いている4月の初め、ワールド・ビジョンの世界のスタッフがオンラインで集まり、ウクライナの平和のために祈る時間がありました。そこでウクライナの子どもたちや人々のために真っ先に祈ったのは、アフガニスタンの事務局長でした。国際社会の関心も支援もウクライナに集中し、目の前にいるアフガニスタンの子どもたちへの支援を十分に行えるのか、心中は複雑なはず。別の会議では「アフガニスタンや他の国・地域で人道危機にある子どもたちのことも忘れないで」と訴えていた彼女。でもその彼女から出てきたのは、深刻な惨状に置かれた何の罪もない子どもや人々の苦しみや哀しみを深く知る者にしかできない、愛に溢れ希望を求める祈りでした。参加した数百名のスタッフが心を打たれました。彼女の祈りが聞き届けられますように。その実現のために、私たちが今できることに、力を尽くすことができますように。